

台湾短期研修報告（松岡、園部、野田）

- 1 日 時 平成30年7月23日（月）～26日（木）
- 2 訪問先 台湾台北市（開平餐飲高等学校、国立台湾大学）、新北市（新北市立総合病院）
- 3 宿泊先 台北市 ブラザーホテル
- 4 参加生徒 食物調理科2年23名 普通科2年2名 計25名
※長期研修生徒 2年4名、3年12名 計16名 （引率 村林）

○7月23日（月）

長期研修と合わせて生徒41名、11時30分に学校集合し貸し切りバスにて中部国際空港へ向かう。16:50発キャセイ航空CX531便にて出発し、予定通り18:00（現地時間）過ぎに桃園国際空港に到着する。その後、バスにて台北市内へ移動、ホテルに荷物を置いて徒歩にて夕食（火鍋料理）のレストランへ向かう。22:00ホテルに帰着、就寝。

到着時の台北の気温は29℃、やや蒸し暑いが日本に比べて涼しく感じた。飛行機が初めて、海外も初めての生徒も多くあったが、体調を崩すことなく元気に過ごせた。



○7月24日（火）

◇開平餐飲高校との交流（食物調理科生徒36名が参加）

8:30ホテルからバスにて開平餐飲高校に移動。歓迎式のあと、午前中は開平高校の先生と生徒の指導で「甜泔（酢豚）」、「麵線（にゅうめん）」の実習、午後は「燒饅頭（黄身餡入り）」の実習があった。慣れない中国語での実習であったが、事前に学習した言葉と身振り手振りを駆使して一生懸命に取り組んでいた。終了後は、開平高校の生徒の案内で士林夜市に出かけた。グループに分かれ、指定された店舗を巡るゲームを行い、短時間ながら夜市を十分楽しむことができた。20:30ホテル帰着。

（開平高校）



◆台湾大学、新北市立総合病院での研修（食物調理科3年進学希望生徒3名と普通科生徒2名が参加）

ガイドをお願いした張（佐倉）さん（台湾人で日本人と結婚）の案内で、8:30ホテルから徒歩1分にあるMRT（地下鉄）南京復興駅で遊悠カード（日本のSuicaのようなもの）を購入して乗車、通

勤ラッシュで混雑していたが無事に国立台湾大学に到着。日本語を学ぶ現地大学生が1名サポーターとして見学に同行してくれた。暑い中、広い校内を移動するのは大変だったが、フェニックスの並木道や大きな図書館（24時間利用可）、物理学部では教授が実験に参加させてくれるなど見所がたくさんあった。午後はMRTで新北市に移動、駅から徒歩1分にある新北市立総合病院に到着。看護婦長の蔡さんの案内で救急外来科、リハビリテーション科、給食施設を見学し、子どもの発達障がいに対する取組のお話を聞かせていただいた。どの科でも丁寧に説明があり、わかりやすかった。国によって異なる医療について学ぶことができたが、患者を治したいという思いは各国共通であった。見学終了後は、士林夜市に出かけ、張さんの案内で夜市を楽しむことができた。19:20ホテル帰着。

(国立台湾大学)



(新北市立総合病院)



○7月25日(水)

全員の生徒が参加し、8:00ホテルより専用バスにて観光に出かける。十分で天灯を打ち上げ、九分で散策と昼食、台北市内に戻り、故宫博物館の見学、免税店やSOGOでの買い物の後、小龍包で有名な鼎泰豊にて夕食をとり、最後に松山夜市で散策し20:30ホテル帰着。生徒は、目が回るような行程であったが、台湾で一度は訪れたい観光地を楽しむことができ大満足であった。



○7月26日（木）

長期研修生徒は高雄へ移動。

短期研修生徒25名は、8：00ホテルから濱江市場へ移動し、台湾の台所事情を見学した。立ち並ぶ店舗には日本にはない野菜や果物、また、さばかれた肉が丸ごと吊るされている様子やそれを買って求める市民の様子を見ることができた。台湾では、外食率が60%を超えるとのことで、屋台で買って食べるのが一般的となっており、市場での売れ行き不振の原因となっているとのことであった。その後、桃園国際空港へ移動し、キャセイ航空CX530便にて中部空港に帰国した。貸し切りバスにて18：40松阪駅、19：10相可高校に帰着。

旅行中、体調不良や事故、事件等なく全員が元気に楽しく過ごすことができたことが何よりであった。台湾での体験や研修先での人とのふれあいなど学ぶことが多くあったと思う。



今後もこのような研修機会を生徒に提案し、事前学習や現地での体験、研修などで異文化理解、国際交流により積極的に自主的に取り組む生徒の育成を図りたい。